

# 埼玉県立川の博物館

## 埼玉の母なる川

荒川は、奥秩父の甲武信ヶ岳<sup>こぶしがたけ</sup>に端を発し、やがて東京湾に注ぐ全長173キロメートルの日本有数の大河川です。古くから水利や舟運に利用され人々の生活に恩恵をもたらす一方で、ときに水害を引き起こしてきたあらゆる川でもあります。中央部に荒川を抱く埼玉県では、小学校の総合的な学習の時間で荒川のことを学ぶ機会が設けられるなど、母なる川として県民から親しまれています。

「埼玉県立川の博物館」は、荒川を中心とした河川、水と人々の暮らしとの関わり、さらには荒川自体の調査研究の拠点として、埼玉県寄居町の荒川の畔に平成9年8月に開館しました。今夏、開館20年を迎えるミュージアムは、「かわはく」の愛称で親しまれていて、年間来場者数は15万人にもなります。

## 数ある日本一 迫力の展示

かわはくは、中央を荒川の支川が貫く敷地内に、大きく分けて、屋内展示、屋外展示、ウォーターアスレチックの3つの展示があります。

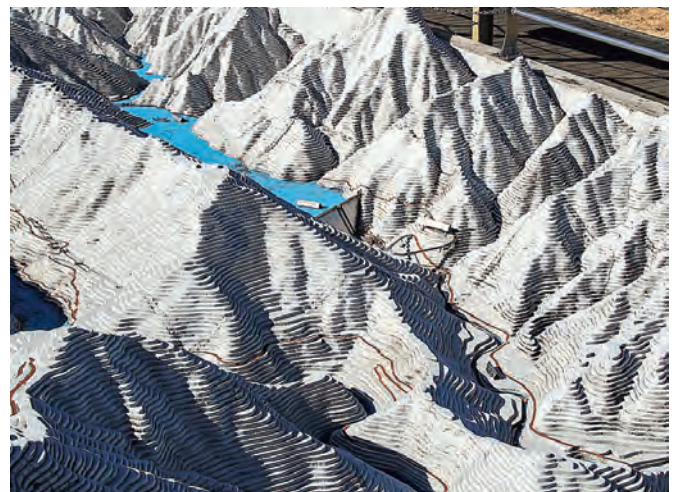
見応え十分の迫力ある展示から特に印象に残った「荒川大模型173」「鉄砲堰」「水車」「大陶板画『行く春』」をご紹介します。

## 荒川大模型173

荒川源流・奥秩父の山々から河口の東京湾までを縮尺1千分の1で表した大型立体模型で、屋外にある精密な地形模型としては日本一を誇ります。平野部ではなだらかに流れるのに、関東平野の縁辺にある寄居町付近を境にして、突然地形が急峻となり上流域を形成していることがよく再現されています。

実際に水を流すことができ、荒川の流れを凝縮して感じ取ることができます。この模型からは他にも多くのことが見てとれます。例えば、荒川の河川管理上の始点<sup>ちくま</sup>の周囲には広大な集水域が広がっていること、千曲川(信濃川)との分水嶺が近くにあることなどです。

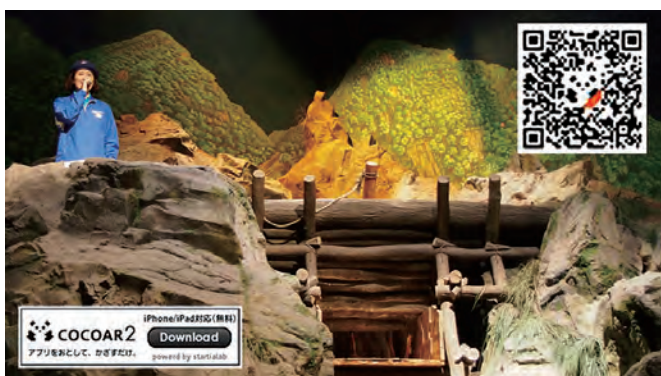
おすすめは鳥になったつもりで山々の上から見下ろすことで、鳥たちが見ている景色を疑似体験できます。



## 鉄砲堰

館内に水が流れていることに大変驚きました。博物館では収蔵品を良好に保存するため本来湿気を嫌いますが、かわはくでは展示品である和船の周りが水で満たされて、まるで浮かんでいるかのような臨場感があります。

大迫力なのが「鉄砲堰」です。鉄砲堰は、荒川支流の中津川で行われていた豪快な木材搬出方法です。山間のV字谷に丸太を組んで堰を作り、その下流に運搬する木材をまとめます。堰上流に水が適度に貯まった頃合で木製ゲートを一気に開放すると、水流で木材が押し流されるという仕組みです。大型模型による実演があり、「ゴー」という轟音とともに、勢いよく水しぶきが上がる様子が再現されています。



## 水車

かわはくと言えば、完成当時日本一の直径23メートルの大水車が有名ですが、かつて蒟蒻芋などを製粉するために働いた水車が2つ移築復元されているので、ぜひご覧いただきたいです。と言うのも、実際に水を流して、水車のはたらきにより動力エネルギーへと変換される様子がよくわかる動態展示だからです。現代では化石燃料や電気に譲りましたが、川の水流を人々が巧みに利用していたことが偲べれます。



## 大陶板画「行く春」

かわはくにはもう一つの日本一があります。長さ21.6m、高さ5.04mの信楽焼の大陶板画「行く春」



(原作・川合玉堂)で、屋外に展示した日本画の大型美術陶板として日本一です。

## かわはくが伝えたいこと

最後に、館長の平山良治さんにかわはくからのメッセージを伺いました。

「かわはくの展示の目玉は荒川そのものだと考えています。川の状態は常に変化しますが、荒川も同様です。アライグマ、ヌマガエル、ハクレンなどの外来生物が増える一方で、本来身近にあったはずのタンポポやスズメの生息数がとても減ってきているのをご存知ですか。生態系の変化が心配です。また、川は良い面と悪い面を持ちます。自然から恵みを受け、共存することで、私たち人間が活かされているということをよく知って欲しいです。荒川はもともとあらゆる川ですから、恐ろしい本質もきちんと理解したうえで、恩恵を享受する必要があると思います。」

かわはくの傍らを流れる荒川一。このミュージアムを訪れたとき、見応え十分の展示だけでなく、埼玉県之母なる川を五感で感じ、思いを寄せてみてはいかがでしょうか。

## 「埼玉県立川の博物館」ご案内

所在地	埼玉県大里郡寄居町小園39
開館時間	9:00～17:00 (夏期延長開館あり)
休館日	月曜 (祝日・振替休日・7/1～8/31・11/14は開館)、12/29～1/3
入館料	一般410円、学生・高校生200円、中学生以下は無料 (障がい者手帳をお持ちの方は全施設無料) ※荒川わくわくランド、アドベンチャーシアターは別途利用料が必要

## 青い!?ニホンアマガエル

かわはくでは、とても珍しいニホンアマガエルを展示中です。何と体色が真っ青!左側が通常の緑色の個体なので、はっきりと色が違うことがわかります。理由はよくわからないようですが、本来持っているはずの黄色、青色、灰色のうち、黄色の色素を持たないことから、このような体色となっているようです。

